
2011年度定例会総会開催通知（会告）

下記により、2011年度に本教育メディア学会定例会総会を開催いたします。会員各位のご出席をお願い致します。なお、ご出席されない方は、同封されております「委任状」にお名前、議案の賛否、ご捺印の上、50円切手を貼って、10月31日（月）必着で、学会事務局宛に折り返しご投函ください。

記

2011年10月9日

正会員各位

日本教育メディア学会
会長 久保田 賢一

1. 日時：2011年11月5日（土） 13:30-14:20（第1日目）

2. 会場：ダイアログハウス <国際会議場>

3. 内容：

（1）議案

第1号議案（2010年度事業報告及び収支予算承認の件）

- ・ 機関誌発行
- ・ 年次大会の開催
- ・ 学術交流等—研究会等の開催
- ・ 2010年度収支予算決算（案）、監査報告（第2ページ参照）

第2号議案（2011年度事業計画及び収支予算承認の件）

- ・ 機関誌発行
- ・ 年次大会の開催
- ・ 学術交流等—研究会等の開催
- ・ 2011年度収支予算書（案）（第3ページ参照）

第3号議案（学会員の会員資格の件）

- ・ 年会費滞納者の扱い
- ・ 博士課程会員の資格変更

第4号議案（International Conference for Media Education 運営等の報告）

- ・ 「日本視聴覚教育協会・井内賞」審議状況と経過報告
- ・ 国立情報学研究所との覚え書き交換の件
- ・ International Journal for Educational Media and Technology の発行回数及び Educational Resources Information Center への登録の件
- ・ 選挙管理委員会の設置、選挙手続きおよび日程
- ・ 2012年度年次大会
- ・ その他

以上

第1号議案

日本教育メディア学会 平成22年度会計収支決算(案)

自：平成22年4月1日～至：平成23年3月31日

(1) 収入の部

収入項目	収入額	備 考
繰越金	904,976	2009年度から繰り入れ
正会員会費	1,750,000	¥7,000 250名
学生会員会費	68,000	¥4,000 17名
団体会員会費	250,000	¥50,000 5団体
購読会員会費	42,000	¥7,000 6団体
過年度正会員会費	609,000	のべ67名
過年度学生会員会費	16,000	のべ4名
新入会金	60,000	正会員23名 学生会員7名
助成金	0	
雑収入	87,738	別刷り印刷(80,000円) 雑誌販売(6,738円+1,000円)
利子	423	
2009年度年次大会収入	8,114	
入金間違い金	14,000	間違い入金等
計	3,810,251	

(2) 支出の部

費用項目	支出額	増減額	備 考
通信運搬	46,230	23,770	学会誌・別刷・学会通信・理事選挙郵送費
消耗品	0	200,000	事務用品
設備・什器	0	50,000	
印刷製本	460,870	1,539,130	学会誌・別刷・学会通信・理事選挙印刷・製本・発送
会議費	0	100,000	選挙管理委員会・理事会・編集委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	0	100,000	国際会議(ICOME2011)開催補助費
借損料	0	100,000	定例理事会・編集委員会会議場借料
旅費	121,940	▲21,940	選挙管理委員会・理事会・編集委員会・事務局旅費
諸謝金	127,800	172,200	英文校閲謝金・事務局補助謝金
年次大会委託費	0	400,000	年次大会は開催が11月のため、次年度繰越
研究会委託費	0	200,000	研究会(2009年度+2010年度準備金)：旧事務局での支出表示14万円は、新事務局に移管され、新研究会委員会に20万円再委託
雑費	22,000	▲12,000	振込手数料・オンライン口座管理費
予備費	0	682,976	事務局移転：旧事務局での支出表示のみ(旧事務局から新事務局への送金；実際には支出されず)
返還金	5,000	▲5,000	内9,000円は次年度年会費繰越し
繰越金	3,026,411	▲3,026,411	2011年度会計に繰り越し
計	3,810,251	502,725	

第2号議案

日本教育メディア学会 平成23年度会計予算(案)

自：平成23年4月1日 ～ 至：平成24年3月31日

(1) 収入の部

収入項目	収入額	備 考
繰越金	3,026,411	2010年度から繰り入れ
正会員会費	1,575,000	¥7,000 225(納入率60%)人
学生会員会費	112,000	¥4,000 28(納入率60%)人
団体会員会費	300,000	¥50,000 6(納入率100%)団体
購読会員会費	42,000	¥7,000 6(納入率80%)人
過年度正会員会費	837,000	のべ46(納入率40%)人
過年度学生会員会費	20,000	¥4,000 5(納入率20%)人
過年度団体会員会費	0	¥7,000 0団体(納入率0%)団体
過年度購読会員会費	21,000	¥7,000 3(納入率37%)人
新入会金	40,000	正会員・学生会員@2,000円×20名
雑収入	300,000	『教育メディア研究』別刷, 会誌販売
計	6,273,411	

(2) 支出の部

費用項目	支出額	備 考
通信運搬	250,000	学会誌・別刷・学会通信・理事選挙郵送費
消耗品	50,000	消耗品費
設備・什器	0	
印刷製本	2,200,000	学会誌2010年度分, 学会誌2011年度分・別刷・学会通信・理事選挙印刷・製本・発送
会議費	100,000	選挙管理委員会・理事会・編集委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	350,000	国際会議(ICOME2013)開催補助費(積立)
借損料	50,000	定例理事会・編集委員会会議場借料
旅費	100,000	選挙管理委員会・常任理事会・常任編集委員会・事務局旅費
諸謝金	400,000	英文校閲謝金・事務局補助謝金
年次大会委託費	400,000	年次大会開催委託費
研究会委託費	200,000	研究会委託費 3回分
企画委員会委託費	100,000	企画委員会委託費
雑費	20,000	振込手数料・オンライン口座管理費 1,000円
予備費	2,053,411	
繰越金	0	2013年度会計に繰り越し
計	6,273,411	

日本教育メディア学会 第18回年次大会開催のお知らせ

I. 開催期日・会場等

開催期日：2011年11月4日（金）-6日（日）

開催場所：国際基督教大学

懇親会：ICU ダイニングホール

II. 大会日程

日 程	時 間	セッション	開 催 場 所
11/4 (金)	14:00 - 17:00	ワークショップ Academic Writing	ダイアログハウス 会議室
11/5 (土)	9:30 -	受 付	ダイアログハウス
	10:00 - 12:00	一般研究	ダイアログハウス 会議室
	12:00 - 13:30	昼 食	各 自
	13:30 - 14:20	総 会	ダイアログハウス 国際会議場
	14:40 - 15:30	特 別 対 話	ダイアログハウス 国際会議場
	15:40 - 17:40	課題研究	ダイアログハウス 会議室
	18:00 - 19:30	懇 親 会	ICU ダイニングホール
11/6 (日)	9:00 -	受 付	ダイアログハウス
	9:30 - 11:30	一般研究	ダイアログハウス 会議室
	11:30 - 13:00	昼 食	各 自
	13:00 - 13:50	基 調 講 演	ダイアログハウス 国際会議場
	14:00 - 16:00	シンポジウム・閉会	ダイアログハウス 国際会議場

III. 大会参加者へのご案内

1. 会場までのアクセス

(1) 飛行機ご利用の場合

羽田空港（東京国際空港）→ 東京モノレール（羽田空港第1ビル駅or第2ビル駅～浜松町駅）または京浜急行（羽田空港駅～品川駅）→ JR山手線または京浜東北線（浜松町駅or品川駅～東京駅）→ JR中央線（東京駅～武蔵境駅or三鷹駅）

(2) 新幹線利用の場合

東海道・東北・上越新幹線（東京駅）→ JR中央線（東京駅～武蔵境駅or三鷹駅）

■ JR 中央線武蔵境駅南口から

- ・小田急バス「国際基督教大学」行終点下車（乗車時間約12分、大学構内まで入ります）
- ・小田急バス「狛江営業所」行、「狛江駅北口」行または「吉祥寺駅」行乗車「富士重工前」下車（約10分）→徒歩10分

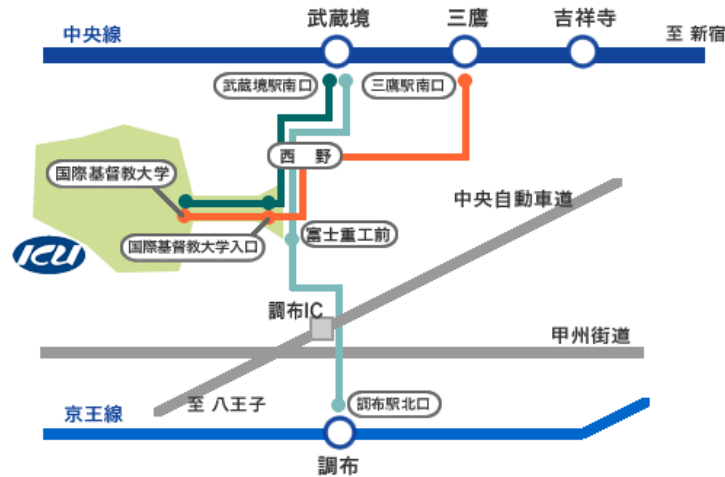
■ JR 中央線三鷹駅南口から

小田急バス「国際基督教大学」行終点下車（約20分、大学構内まで入ります）

小田急バス「武蔵小金井駅」行または「調布駅北口（西野御塔坂下経由）」行乗車「富士重工前」下車（約20分）→徒歩10分

■ 京王線調布駅北口から

小田急バス「武蔵境駅南口」行または「三鷹駅（西野御塔坂下経由）」行乗車「富士重工前」下車（約20分）→徒歩10分。



2. 受付

受付場所……ダイアログハウス

受付時間……11月5日（土）9:30 -、18日（日）9:00 -

大会参加費等

- ・ 一般会員（発表論文集代を含む） 6,000円
- ・ 学生会員（発表論文集代を含む） 4,000円
- ・ 一般（非会員）参加者（発表論文集代を含む） 7,000円
- ※ 幼稚園～高校の教員 2,000円
- ・ 懇親会費：学生 3,000円 ・ 学生以外 5,000円

名札……受付で名札をお渡しします。所属及び氏名をご記入の上、大会期間中の会場内では必ず名札をお付け下さい。

※事前の参加申込は、9月30日（金）をもって締め切りしました。参加費の払込がまだの方は、前々日までに銀行口座にお支払いいただくか、当日受付にてお支払い下さい。

3. ワークショップ

日時：11月4日14:00 - 17:00

コーディネータ：Bert Kimura・Mary Kimura（大阪学院大学・ハワイ大学）

テーマ：Writing Conference Proposal in English

※ ワークショップは全て英語で行ないます。電子辞書をご持参下さい。

4. 総会

11月5日（土）13:00 - 14:00 に、ダイアログハウスにおいて総会を行います。

5. 懇親会

11月5日（土）18:00 - 19:30 にICUダイニングホールにおきまして懇親会を開催いたします。皆様お誘い合わせの上ご参加下さい。会費は学生 3,000円、学生以外 5,000円です。

6. インターネット接続について

年次大会の発表会場には、無線インターネットをご用意しております。インターネットの接続方法は年次大会の際に当日ご案内致します。

7. 昼食・宿泊

昼食は、ダイアログハウス1階にあります大学食堂をご利用いただけます。営業時間は両日程ともに11時～14時です。また、宿泊の手配は各自でお願いします。

IV. 研究発表者（課題研究・自由研究）へのご案内

1. 発表までの準備

- ・発表者（登壇者）は本学会の会員であることが必要条件です。また、2011年度の年会費の納入がお済みかどうか、今一度ご確認下さい。未納の方は、学会事務局受付でお払い込み下さい。
- ・会員1名が発表できる件数は、課題研究1件、自由研究1件、計2件までです。
- ・発表申込及び原稿送付は、9月30日（金）をもって締め切りました。

2. 発表当日

- ・各会場には、セッションの進行を行う「座長」（課題研究は「コーディネータ」）を置きます。
- ・配布資料がある場合、セッション開始前に座長にお渡しください。座長が資料を配布いたします。
- ・各会場に、MS Office XP がインストールされたWindows パソコンとプロジェクタを用意します。利用可能な媒体は、USBメモリまたはCD、DVDです。これ以外の機材、ソフト等を使用する場合及びハンドアウトなど配布資料は、各自でご準備ください。発表が円滑に行われますよう、プレゼンテーションソフトが動作するかセッションの開始前に必ずテストを行っていただきますよう、お願い申し上げます。また、ご持参いただいたPCをプロジェクタに接続される場合は、プロジェクタ側の能力に応じてPC側の設定を変更する必要がある場合がありますので、特にご注意くださいよう、お願い申し上げます。

座長・コーディネータへのお願い

- ・一般研究はセッション毎にお二人の座長をお願いしております。事前にご相談の上、進行をお願いいたします。
- ・複数のセッションが同時並行で進みますので、予定時間での進行にご協力をお願いいたします（他のセッションから途中で移動される方がおります）。
- ・急な発表取り消し、欠席者が出た場合にも、発表時刻の繰上げは行いません。空いた時間は座長の裁量で質疑・討論等に当ててください。
- ・座長はタイムキーパーを兼ねていただきます。
- ・課題研究の発表時間等は、コーディネータにお任せします。

大会プログラム・第1日・11月4日（金）

ワークショップ（ダイアログハウス 会議室） 11月4日 14:00-17:00

コーディネータ： Bert Kimura・Mary Kimura（大阪学院大学・ハワイ大学）

1. Writing Conference Proposal in English

現在、大学の国際化の必要性が叫ばれており、大学生・大学院生は日本のみで活動するだけでなく海外での活躍も期待されています。その第一歩として、研究者を志す大学院生を対象として、英語論文を執筆するためのワークショップを開催します。本ワークショップでは、グループワークを通して英語論文を書く基礎として、パラグラフィティングや書き方や発表資料の作り方を学ぶ事を目標とします。

大会プログラム・第2日・11月5日（土）

A 一般研究 11月5日 10:00-12:00

ダイアログハウス2階 インターナショナルカンファレンスルーム

座長：中川一史（放送大学） 石川勝博（常磐大学）

- A1-1 iPhone を利用した英語学習アプリケーションにおいて学習履歴機能の有無が学習の継続に与える影響の検討
小山義徳（聖学院大学）・尾崎圭（株式会社NHK出版語学編集部）
西村治男（大日本印刷株式会社）・宮下勉（株式会社DNPデジタルコム）
山内祐平（東京大学大学院情報学環）
- A1-2 課題分析図に基づくMoodle用の事前・後テストモジュールの出題効率向上と学習計画の立案支援を目的とした改訂
高橋暁子・喜多敏博・中野裕司・合田美子・鈴木克明（熊本大学）
- A1-3 中学校における進学指導と言語活動についての現状と課題
宮武英憲（城西大学）・小川泉（実践女子大学）
栗田るみ子（城西大学）・宮寺庸造（東京学芸大学）
- A1-4 小学校国語科における映像メディアの表現に関する到達項目の整理
中川一史（放送大学）・中橋 雄（武蔵大学）・佐藤幸江（高田小学校）
西田素子（犀川小学校）・前田康裕（熊本市教育センター）
- A1-5 動画サイト視聴と受け手の能動性
石川勝博（常磐大学）
- A1-6 新聞見出しに着目した言語活動を取り入れ授業展開と評価
杉聖也（坂梨小学校）・山本朋弘（熊本県教育庁）・中川一史（放送大学）
- A1-7 表現媒体の違いによる学習効果の検証に関する研究
三瓶頌太（金沢工業大学大学院）
- A1-8 小学校における国際理解教育の実践事例研究 -M小学校での国際理解教育への教員の取組みから-
平川成一（関西大学）・久保田賢一（関西大学）

B 一般研究 11月5日 10:00-12:00

2階201/202

座長：佐藤知条（湘北短期大学）・久保田賢一（関西大学）

- B1-1 特別支援教育における遠隔学習を行う上で生じる問題 ―院内学級の実践を事例に―
植田 詩織（関西大学大学院）・久保田 賢一（関西大学）
- B1-2 大学生による高校での授業支援活動における教師と学生との連携方法に関する研究
田中宏樹・時任隼平（関西大学大学院）
- B1-3 雑誌『放送』における学校放送関連記事の整理と分類
佐藤知条（湘北短期大学）
- B1-4 大震災前後にみるデジタル・ネイティブにとってのTVコマーシャル
小田茂一（愛知淑徳大学）
- B1-5 社会文化的アプローチにおけるメディア概念の拡張
久保田賢一（関西大学）
- B1-6 動画番組「先生ちゃんねる」の開発と評価
前田康裕（熊本市教育センター）
- B1-7 協働と省察による校内教員研修が教師の授業力の向上に及ぼす影響（3）
―沖縄県島尻教育研究所におけるワークショップ方式集合型教員研修プログラムの開発と実践―
南部昌敏（上越教育大学）・金城勲（糸満市立兼城小学校）・上原周子（島尻教育研究所）
上江田敏博（島尻教育研究所）・上原勝晴（島尻教育研究所）・小林稔（京都教育大学）
浦野弘（秋田大学）・三橋功一（北海道教育大学）・井上久祥（上越教育大学）

C 一般研究 11月5日 10:00-12:00

2階203

座長：三宅正太郎（福山大学）・清水和久（金沢星稜大学）

- C1-1 文化理解を促すための映像メディアの制作の実践と評価
岸磨貴子（京都外国語大学）・山本良太（関西大学大学院）
- C1-2 学習者の学習支援ツールとしてのイメージマップの課題について（2）
三宅正太郎（福山大学）・栢野彰秀（北海道教育大学釧路分校）
- C1-3 大学生とNGOのパートナーシップによるICT活用
吉田千穂（関西大学大学院）・久保田賢一（関西大学）
- C1-4 留学生のローカルコミュニティ参入を支援する学習環境の構築
山本良太（関西大学大学院）・久保田賢一（関西大学）
- C1-5 異文化間協働制作における協働のプロセスとICTの役割
齋藤祐子・森島亜也子・吉田千穂（関西大学大学院）・久保田 賢一（関西大学）
- C1-6 国際e-learning講座の教育的効果と課題
清水和久（金沢星稜大学）
- C1-7 平和構築・紛争予防学における紛争経験国間での遠隔授業の実践と課題
福田彩（国際基督教大学）

座長：鄭仁星（国際基督教大学）・堀田博史（園田学園女子大学）

- D1-1 Why do Japanese students make certain ethical decisions in the use of ICT?
鄭仁星（国際基督教大学）
- D1-2 Using Instructional Design Theory to Enhance EMP Instruction at a Japanese Medical School
小野倫寛（国際基督教大学大学院）
- D1-3 Designing Web Class: Applying ARCS Model To the Blended Learning for EFL Course
Yaoko Matsuoka（International Christian University）
- D1-4 Vocabulary acquisition through SMS: Effects of two presentation formats
Garcia Mendoza Gibran（International Christian University）
- D1-5 文章作成支援ツールの現状と初年次学生のための学習支援ツールの特徴
壹岐信子（総合研究大学院大学）・芝崎順司（放送大学）
- D1-6 児童の学習スタイルの違いに着目したICT 活用時の工夫
堀田博史（園田学園女子大学）・久岡淳一（豊中市立新田小学校）
吉川俊三（枚方市立藤阪小学校）・芝崎清治（豊中市立原田小学校）
湯井康二（豊中市立庄内南小学校）・十河秀敏（豊中市立野畑小学校）
- D1-7 言語力育成を主題とする教師の発話分析
亀山俊・野口聡・村川弘城（関西大学大学院）

特別対話「教育番組・コンテンツの最新動向」

ダイアログハウス2階 インターナショナルカンファレンスルーム 11月5日 14:40-15:30

登壇者：小平 さち子（NHK放送文化研究所）
宇治橋祐之（日本放送協会制作局）

メディア環境が大きく変容する中、教育番組や多様なコンテンツは、どのように変化しているのでしょうか。NHKで学校教育向け番組やコンテンツの制作を担当してきた宇治橋会員と、教育メディアに関する研究に携わってきた小平会員が、NHKの他、海外の動向についても紹介します。

K1 課題研究Ⅰ デジタル教科書の現状と展望

2階201/202 11月5日 15:40-17:40

コーディネータ：中川一史（放送大学）

平成23年4月28日に文部科学省より「教育の情報化ビジョン」が公表された。それによると、「教科指導における情報通信技術の活用」において、「指導者用デジタル教科書の開発の促進，容易に入手できるような支援方法の検討」「学習者用デジタル教科書の教育効果や指導方法，必要な機能の選定・抽出の検討をはじめとした実証研究の必要性」等について触れている。指導者用デジタル教科書は、新版教科書に対応して50%以上出され今後の普及について注目されている。また、学習者用デジタル教科書についても、フューチャースクール実証校などでの試行が進みつつある。このような中、デジタル教科書・教材の現状や課題についての知見を深める。

K1-1 国語科デジタル教科書研修と機能の評価

前田康裕（熊本市教育センター）

K1-2 一人1台情報端末を活用した実践にみるデジタル教科書・教材の要件

稲垣忠（東北学院大学）・中川一史（放送大学）・
村井万寿夫（金沢星稷大学）・清水雅之（上越教育大学）・
中橋 雄（武蔵大学）・内垣戸貴之（福山大学）・
山本朋弘（熊本県教育庁）・栗原一貴（産業技術総合研究所）・
二木祥一（NTTコミュニケーションズ）

K1-3 日韓デジタル教科書の機能と効果の比較

泰山裕・黒上 晴夫（関西大学）

K2 課題研究II 教育と放送のデジタル化

2階203 11月5日 15:40 - 17:40

コーディネータ：宇治橋祐之（日本放送協会制作局）

2011年7月24日、東日本大震災による影響の大きい岩手、宮城、福島 の3県以外で、地上放送の完全デジタル化が実施される。すでに全国の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等ではデジタル化への対応が進み、2010年3月時点でデジタル化対応テレビ整備学校数は61.5%である。デジタルテレビは、アナログテレビよりも高画質、高音質の映像を表示でき、パソコン・デジタルカメラや実物投影機等とも連携がしやすく、「見るテレビ」だけでなく「使うテレビ」としても活用されている。デジタル化を機にあらためて、放送と教育の関わりを考える。

K2-1 学校放送番組を中核としたクロスメディア教材とポータルサイトの設計
～NHKデジタル教材の再構築～

宇治橋祐之（日本放送協会制作局）

K2-2 デジタル化が進む学校現場における放送の教育利用の意義

渡辺誓司（NHK放送文化研究所）

K2-3 「学校放送のデジタル化」に対する教員の意識調査

安井政樹（北海道教育大学）

K3 課題研究III 教育とソーシャルメディア

2階204 11月5日 15:40 - 17:40

コーディネータ：影戸誠・佐藤慎一（日本福祉大学）

対話的な双方向でのやり取りを特徴とするソーシャルメディアの普及は目覚しく、近年では政治・ビジネス分野でも大きな影響力を持つようになってきた。こうしたソーシャルメディアは、教育とも様々な関わりが考えられる。新たなメディアとしてのリテラシ教育に加え、ソーシャルメディア自身の持つ機能や特性を学習・教育に有効活用するというアプローチもあるであろう。本セッションでは、ソーシャルメディアの教育活用に関する実践および研究を幅広く募集する。ソーシャルメディアと呼ばれるシステムやツールは膨大にあるが、研究発表・議論を通じて、システム・ツールに振り回されない、望ましい教育のあり方について知見を深めたい。

K3-1 Project-based Learningにおけるソーシャルメディアの活用

佐藤慎一・影戸誠・Gary Kirkpatrick（日本福祉大学）

K3-2 ソーシャルメディアを利用した東日本大震災ニュースについての大学生のメディア・リテラシー学習

和田正人 (東京学芸大学)

K3-3 大学授業におけるソーシャルメディアの活用

村上正行 (京都外国語大学)

K3-4 ソーシャルメディアを利用した授業実践の一考察 -インタビュー調査とアンケート結果から-

川瀬基寛 (甲南女子大学)

K3-5 ソーシャルメディアによる表現コミュニケーションと学校の学びの関係の検討

小柳和喜雄 (奈良教育大学)

K4 課題研究Ⅳ ESDの展開および推進とICTの活用

ダイアログハウス2階 インターナショナルカンファレンスルーム 11月5日 15:40-17:40

コーディネータ：篠原文陽児 (東京学芸大学)

ESD (Education for Sustainable Development; 「持続発展教育」) は、2008 年および 2009 年に告示された学習指導要領が期待する重要な教育目標および内容の一つである。これまでの「総合的な学習の時間」における領域にジェンダー、子どもの人権教育、貧困撲滅、識字、エイズ、紛争防止教育などを加えて縦軸とすれば、社会・文化、環境、経済分野にいつそう注目し、公平、安心と安全、価値の共有を横軸として導入するなどして、実現される。現在および今後の児童生徒の学習を、これまで以上に豊かで質の高い活動に引き上げることが期待されている。コンピュータや通信ネットワークはもとより、広く普及している視聴覚機器や放送機器などを含めた ICT を活用する ESD の展開と推進の現状と課題を探り、教育の発展に寄与する。

K4-1 アジア太平洋地域における「持続可能な発展のための教育とICTの活用」の現状及び課題

— 課題研究「ESDの展開および推進とICTの活用」設定の趣旨 —

篠原文陽児 (東京学芸大学)

K4-2 問題解決学習にみられる写真の活用

松田一枝 (多摩市立連光寺小学校)

K4-3 ESDの推進とICT活用研修の現状と課題

松野成孝 (松戸市教育情報センター) ・宮武英憲 (城西大学)

K4-4 ICTを活用した国際交流を通じて、世界の「持続可能な発展」を支える人材育成

-科学技術高校における国際交流の現状と今後への提案：現場からの報告と業界からの助言-

井口実千代 (東京工業大学) ・山崎久美子 ((有)デジタル・ワークス)

K4-5 持続可能な社会づくりへ向けたコミュニケーションに関する指導法の検討

栗田るみ子 (城西大学) ・中村 光伸 (総合システム開発KK)

K4-6 国際交流におけるICTの役割～タイにおける事例から～

大西誠 (愛知淑徳大学)

大会プログラム・第2日・11月6日(日)

A 一般研究 11月6日 9:30-11:30

2階201/202

座長：田邊則彦（関西大学初等部）・小林祐紀（金沢市立小坂小学校）

- A2-1 デジタルカメラを用いた授業省察における省察フォーマットの改善
福田晃（金沢大学）・中川一史（放送大学）・加藤隆弘（金沢大学）
- A2-2 海外留学における異文化理解を深めるためのSNSの活用
森島亜也子・山本良太（関西大学大学院）・久保田賢一（関西大学）
- A2-3 教職専門実習における電子黒板を用いた授業の実践と課題
塗谷健司・浅井和行（京都教育大学）
- A2-4 初等・中等教育機関におけるe-Portfolioシステムの導入事例報告
田邊則彦（関西大学初等部）
- A2-5 携帯電話シミュレーションツールを活用した授業設計
小林祐紀（金沢市立小坂小学校）・中川一史（放送大学）・山本和人（Sky株式会社）
- A2-6 高度な教育に供するためのSkype活用環境の構築と運用
稲垣秀人（武蔵大学）
- A2-7 高等教育におけるWeb2.0技術を活用した協同学習の課題
藪内貴聖（関西大学大学院）・稲垣忠（東北学院大学）
岸磨貴子（京都外国語大学）・久保田賢一（関西大学）

B 一般研究 11月6日 9:30-11:30

2階203

座長：中橋雄（武蔵大学）・寺嶋浩介（長崎大学）

- B2-1 「情報社会における問題解決」の授業実践
岡本弘之（聖母被昇天学院中学校高等学校）・浅井和行（京都教育大学）
- B2-2 教科「情報」においてグループワークを支援するワークシートデザインの検討
山本真由（関西大学）・時任隼平・齋藤 祐子（関西大学大学院）
田畑良・堀雅洋（関西大学）
- B2-3 メディアで表現する活動における到達目標の開発
中橋雄（武蔵大学）・中川一史（放送大学）
佐藤幸江（横浜市立高田小学校）・前田康裕（熊本市教育センター）
山中昭岳（関西大学初等部）・岩崎有朋（鳥取県教育センター）
佐和伸明（柏市教育委員会）
- B2-4 フィジカルコンピューティングツールを利用したPBL教育の教育効果に関する一考察
鈴木浩（神奈川工科大学）・本池巧（駿河台大学）
- B2-5 学習者の現実の文脈とシナリオ文脈の「ずれ」を見つけ出すために
竹岡篤永・根本淳子・喜多敏博・鈴木克明（熊本大学大学院）
- B2-6 教科「情報」において、学校ボランティアが生徒与える影響
林良祐（関西大学）・齋藤祐子・時任 隼平（関西大学大学院）・黒上晴夫（関西大学）

B2-7 Technological Pedagogical Content Knowledge (TPACK)に関する研究の動向

寺嶋浩介 (長崎大学)

C 一般研究 11月6日 9:30-11:30

2階204

座長：鈴木克明 (熊本大学大学院) ・ 佐々木輝美 (国際基督教大学)

C2-1 オンライン大学院における公開科目提供事例

鈴木克明・根本 淳子・烏中啓子・高橋暁子・吉田あきえ (熊本大学大学院)

C2-2 World Museum～日常と世界をつなぐ学びの場～

三嶋亜由美・宮田義郎 (中京大学)

C2-3 本学園におけるeラーニング新システムの開発と運用

寺岡浩平・中澤匠吾・森山了一・大泉由香・白崎祐・猪貝達弘 (NHK学園高等学校)

C2-4 体験を振り返り、直感的に記録するリフレクションツール

川口弥生・宮田 義郎 (中京大学)

C2-5 現行のナビに搭載される歩行者利用に関する機能と避難時における子どもの利用可能性

森田健宏 (関西外国語大学短期大学部) ・ 川瀬基寛 (甲南女子大学)

上相英之 (神戸学院大学) ・ 堀田博史 (園田学園女子大学)

C2-6 地域学習に連動した防災教育の開発手順～木曾三川地域の取り組みと歴史から～

加藤隆弘 (金沢大学) ・ 水越敏行 (大阪大学)

C2-7 テレビゲームと青少年 ソフトのレーティング制度を中心に

佐々木輝美 (国際基督教大学)

D 一般研究 11月6日 9:30-11:30

ダイアログハウス2階 インターナショナルカンファレンスルーム

座長：浅井和行 (京都教育大学) ・ 村井万寿夫 (金沢星稷大学)

D2-1 初等教育におけるメディア・リテラシー教育カリキュラムの検討

浅井和行 (京都教育大学) ・ 中橋雄 (武蔵大学)

黒上晴夫・久保田賢一 (関西大学)

D2-2 小学校国語科教科書における映像メディアの理解と表現の指導に関する分類方法の検討

佐藤幸江 (横浜市立高田小学校) ・ 中川一史 (放送大学)

中橋雄 (武蔵大学) ・ 石川等 (甲府市立里垣小学校)

黒川弘一・森下耕治 (光村図書出版)

D2-3 昭和35年度版小学校国語科教科書における説明文教材の映像メディアの理解と表現に関する分析

石川等 (甲府市立里垣小学校) ・ 中川一史 (放送大学)

中橋雄 (武蔵大学) ・ 佐藤幸江 (横浜市立高田小学校)

黒川弘一・森下耕治 (光村図書出版)

D2-4 e-learningによる自己学習を成立させるための要件についての検討

野口聡 (関西大学大学院)

堀田博史・清水五男・垣東弘一・小田桐良一 (園田学園女子大学)

D2-5 高等学校におけるタブレット端末を活用したフィールドワークの実施と評価

時任隼平 (関西大学大学院) ・ 江守恒明 (関西大学高等部) ・ 久保田賢一 (関西大学)

D2-6 NHKデジタル教材の活用を促進するための方法

村井万寿夫・岡部昌樹（金沢星稜大学）

D2-7 韓国語話者のためのマルチメディアを利用した初級日本語アクセント教材

丁愚錫（東京外国語大学大学院）・加藤由香里（東京農工大学大学）
河路由佳（東京外国語大学大学院）

D2-8 通信制高校のeラーニングにおける教師の学習支援

小林道夫（神奈川大学附属中高等学校）・岸磨貴子（京都外国語大学）
今野貴之（関西大学大学院）・久保田賢一（関西大学）

基調講演「韓国でのデジタル教科書の開発と実現」

ダイアログハウス2階 インターナショナルカンファレンスルーム 11月6日 13:00-3:50

講演者：Hoseung Byun（Chungbuk University）

デジタル教科書の開発を進めた力は、コスト、柔軟性、クリエイティブ・コモンズ運動、利便性、可搬性、IT産業の投資、将来不可欠なスキルを育成できるという期待、教育革新などさまざまである。しかし、デジタル教科書を採用するかどうかに影響する変数はたくさんある。「デジタル教科書は必要なんだろうか」という疑問は、未だにある。教師や保護者の多くも、従来の教授法にはメリットがあると感じている。デジタル教科書の役割についての共通認識はまだこれからである。それは、書籍の教科書と入れ替わるのか、あるいは補助的に使われるものなのだろうか。試行錯誤と経験を通して、よく検討してから決定される必要がある。

シンポジウム「教室を越えるテクノロジー」

ダイアログハウス2階 インターナショナルカンファレンスルーム 11月6日 14:00-16:00

コーディネータ：佐々木輝美（国際基督教大学）

テクノロジーによって教育が解放され、様々な意味で教室が広がり（オープンネス）を持つようになった。このシンポジウムでは、新しいテクノロジーを積極的に教育に取り入れている四人の研究者にご登壇いただき、それぞれの具体的な取り組みを紹介して頂く。その後のディスカッションでは、教室がどのような次元でどのように変化を遂げ解放されていくのか、具体的な取り組みから見えてくるテクノロジーの可能性と課題について考察する。

S1-1 教室の壁を超える学び：EFL オープン・インストラクショナル・デザインの影響

安西弥生（青山学院大学）

S1-2 相互行為における道具のオープン性と創発的分業に関する考察

加藤 浩（放送大学）

S1-3 オープンコンテンツ環境で学生はどのようにふるまうか

松田岳士（山形大学）

S1-4 ソーシャルメディアを利用したキャリア学習環境

山内祐平（東京大学）

International Conference for Media Education 2011 開催報告

文責 日本教育メディア学会会長
久保田 賢一

恒例の国際学会 International Conference for Media Education (ICoME) 2011 が、今年は韓国の成均館大学 (Sungkyunkwan University) で 8 月 26 日から 28 日の間開催されました。日本からは 55 名が参加し、44 件の発表がありました。

今年の開催大学である成均館大学は、ソウル市内にあり交通も便利な場所に位置しています。全体で 150 名ほどの参加者があり、日中韓を始めフィリピンなど他国からも参加があり、年々国際色が豊かになってきました。

この国際学会の特徴は、学生の参加を奨励していることです。関西大学、日本福祉大学、京都外国語大学、熊本大学などから大学院生・学部生が参加し、ラウンドテーブルで発表しました。閉会式では、ラウンドテーブルでの発表に対して、優秀賞を用意しています。今年も、日本人学生が受賞したことで、研究に対する意欲の高まりを見せています。学部生にとっては、海外での英語で話す初めての発表です。ここでの発表の経験が大きな自信につながったようです。

この国際学会では、日韓の研究者が集まり、日頃の研究成果を発表しますが、昨年からは中国が参加し、今年は 3 カ国が正式に連携しようと調印式が開かれ、3 カ国の代表が署名を行いました。来年度の開催は、8 月 20 日から 22 日の間、北京師範大学で行う予定です。中国での連携の相手は、中国教育技術協会 (China Association of Educational Technology: CAET) で、全国の会員数は 80 万人だそうです。来年からは、日中韓の教育メディア研究者が一同にそろい、それぞれの国での研究成果が披露される予定です。ICoME2012 のさらなる発展が期待されます。



来年も是非多くの方が参加してほしいと思います。



日本教育メディア学会 第2回研究会のお知らせと発表の募集

本研究会は研究発表（自由研究も含む）と、ミニシンポからなります。ミニシンポではメディアの利用実態や情報行動を研究されている後藤康志先生（新潟大学）、上松恵理子先生（新潟大学）、田山淳先生（長崎大学）にご登壇をお願いし、これまでの学習者のメディア利用に関する研究を振り返ってもらいながら、教育現場への適用についてそのお考えを話題として提供して頂く予定です。研究会テーマに限らず、自由研究の発表についても受け付けますので、積極的にご発表ください。

1. 開催日時：

2011年12月17日（土）13時から17時（12時半より受付）

2. 場 所：

〒852-8521 長崎市文教町1番14号 長崎大学教育学部21番教室（予定）

3. 研究会テーマ：学習者のメディア利用・情報行動

学習者のメディア利用の実態に関する調査は、本学会では古くから様々なものが実施されてきました。最近では特に携帯電話やソーシャルメディアの利用について、多くの研究者が関心を寄せており、学会での発表も増えています。

一方、その成果を具体的に教育現場にどのように活かしていくかについてはあまり深い議論がなされていません。そこで、本研究会では改めて学習者のメディア利用や情報行動に焦点をあて、その現状をおさえながら、一体その研究成果をどのように教育に役立てていくのかについて議論できればと思います。

4. 参加費：

資料代1,000円

5. 発表申し込み：

氏名、所属、発表タイトルを、メールでお送りください。

日本教育メディア学会会員でなくとも発表できます。

6. 発表申し込み締め切り日：

10月17日（月）

7. 原稿送付締め切り日：

11月17日（木曜日）締め切り厳守。次ページの要領にしたがって、メールでお送りください。

発表申込の際に、原稿フォーマットをお送りします。

また、研究会 web ページでダウンロードも可能です。

<http://jaems.jp/contents/kenkyukai/>

8. 原稿執筆要綱：

原稿は論文集にまとめます。

○ワード形式または pdf 形式の原稿をメールで送付してください。

○B5 版 1 行 20 字×40 行×2 段組枚数は 4 枚以上の偶数枚。余白は、左右・上下=23mm

○字体は明朝体 9 ポイント和文と英文の表題・名前・所属、要約、キーワード（5 個以内）

※原稿フォーマットは研究会 web ページ

（<http://jaems.jp/contents/kenkyukai/>）からダウンロードできます。

9. 懇親会のお知らせ：

研究会終了後、簡単な懇親会を予定しております。参加費用約 5,000 円の予定です。

10. 参加申し込み：

12月2日（金曜日）までに、以下の項目について担当者（寺嶋：k-tera@nagasaki-u.ac.jp）までお知らせ下さい。

- ☆ 研究会で発表する・しない
- ☆ 懇親会に参加する・しない
- ☆ ご所属
- ☆ お名前
- ☆ ご住所・連絡先

11. 会場担当者：寺嶋浩介（発表・参加申し込み，原稿送付先）

日本教育メディア学会 研究会の予定

第三回研究会

1. 日 程 2012年2月18日（土）
2. 開催場所 椋山女子大学
3. 担 当 亀井美穂子（椋山女子大学）
4. 開催テーマ 未定

開催テーマは決定次第，学会 Web サイトにて，お知らせ致します。

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日)の年会費7,000円(学生会員4,000円 博士課程後期課程に在籍の方は、正会員となります)が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくか、郵便局備え付けの「郵便振替用紙」を用いて、納入いただくようお願いいたします。

なお、前年度までの会費が未納の方は、振込者名の後ろに年度を付加してお振り込みいただくか、郵便振替用紙に年度を明記の上、合わせて納入をお願いします。

<送金先>

(1) りそな銀行 店名：千里中央支店 預金種目：普通 口座番号：0124720 口座名：日本教育メディア学会 (ニホンキョウイクメディアガクカイ)	(2) ゆうちょ銀行 口座番号：14160-8658501 口座名：日本教育メディア学会 (ニホンキョウイクメディアガクカイ) (銀行からの振込の場合) 銀行名：ゆうちょ銀行 店名：四一八店 (ヨンイチハチテン) 店番：418 預金種目：普通 口座番号：0865850
---	---

※他行からゆうちょ銀行への振り込み・・・店番418・口座番号0865850

※現金でゆうちょ口座へ振り込み・・・電信振込み請求書・電信振替請求書をご利用ください。

(手数料525円が別途必要となります)

※郵便貯金口座をお持ちの方は、ATMからの振り込みが可能です(手数料無料)。

その他、ご不明な点がございましたら、本学会のWebページの「入金口座について」をご参照ください
 (<http://jaems.jp/contents/admission/account.htm>)。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員(14名)・・・三瓶頌太, 松田一枝, 小野倫寛, 小杉弥生, 石川等, 三嶋亜由美, 西岡貞一,
 川口 弥生, 寺岡浩平, 宮田義郎, 鈴木浩, 丁愚錫, 壹岐信子, 齋藤祐子

退会者(4名)・・・新城岩夫, 田渕龍二, 高津直己, 井上雅子

会員総数 442名・18団体

正会員 399名 学生会員 43名

団体会員 6団体 購読会員 12団体

(平成23年10月7日現在)

日本教育メディア学会 事務局	
〒569-1095 大阪府高槻市壺仙寺町2-1-1 関西大学大学院 メディアミックス研究室内	
電話.FAX 072-690-2419	
学会ホームページ URL	http://jaems.jp/
E-mail	office@jaems.jp

(平成23年10月15日現在)